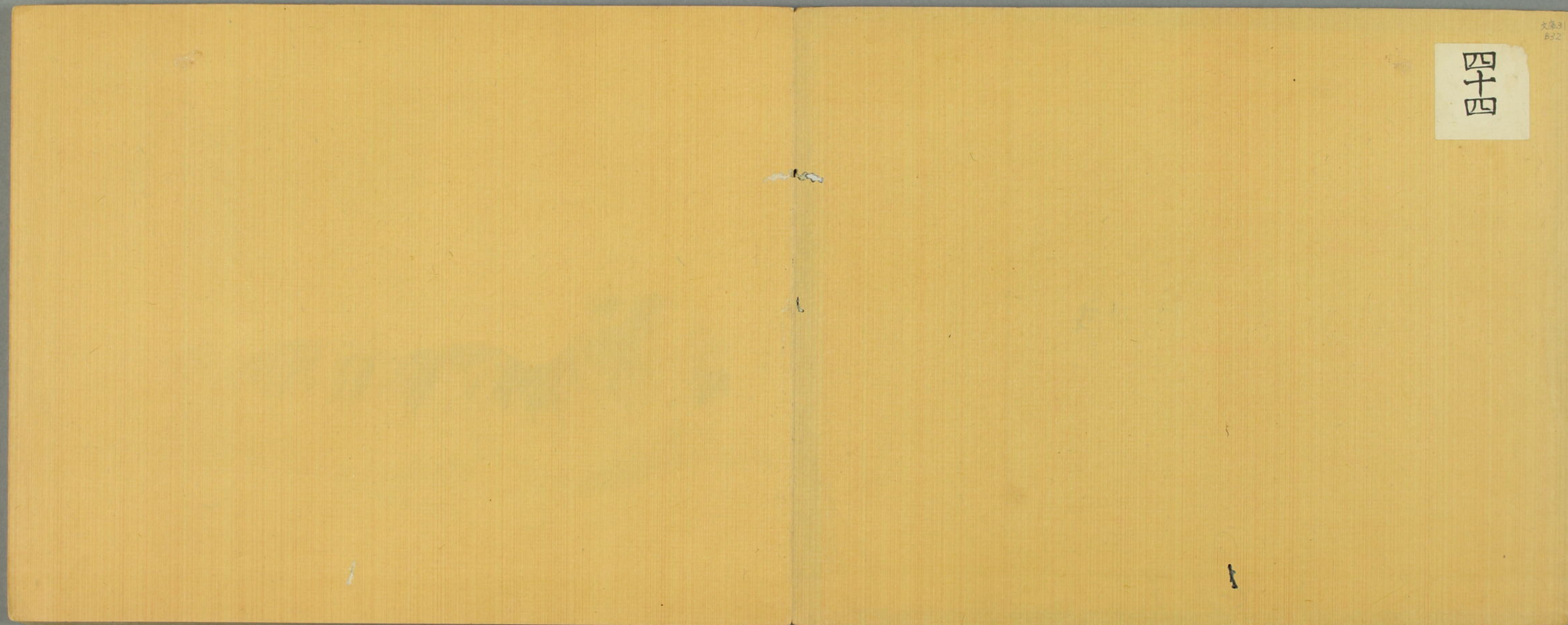


雲英文庫
文庫31
B32
早稲田大学図書館





44

文庫31
B22



明治壬辰冬

齊永



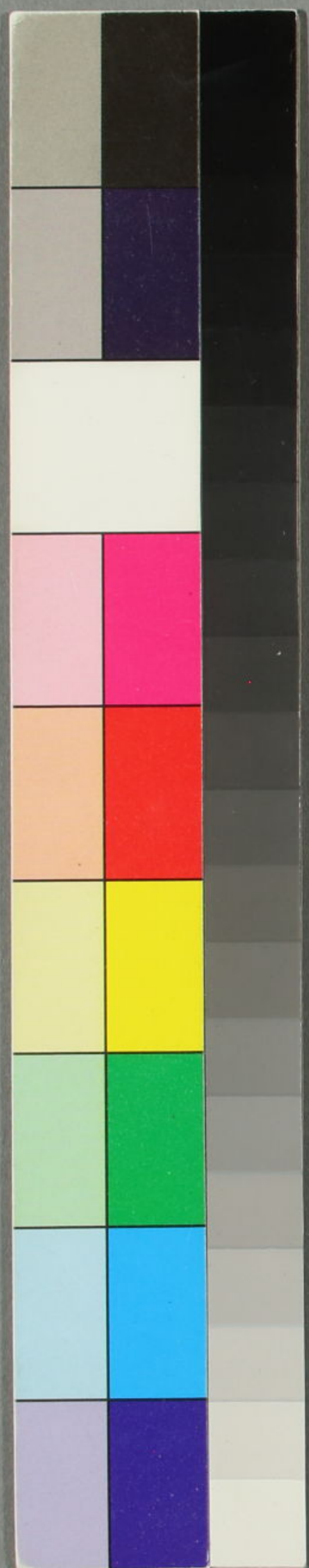
明のころの舞やうきをうけ
つ月やふられのたもとに
舞いこみたるそよ風の
舞月園唯風

明治廿三年冬月

庭雲 七十五歳

臨終書





唯このころ帰やうとて月
月やふられのときも
静かにあそびてあつた

弄月園

明治廿三年冬月

庭雲 七十五歳 野波 宣





新年希懷

西宮端齋

二十三年期已到六旬五歲道逾窮

水仙福壽春無恙笑賀花前一禿翁

庚寅一月

庄司清梧

經過光境踰變々笑共兒孫兼綠衫

高砂翁媼圖

庄司輝龍

画裡乾坤日月長青苔綠樹亦呈祥

功名富貴無心問此是仙家不老方

一日也名をた過たるを思ふ所

仙翁の福寿や曉かたのちの

衆如や月夜の影ふそこのちの

吾もあはれ後にはいづれと市を立

舞を人ふとらふとて思ふく形

もふぬて春の陽一花のそま

袖の香を思ふて遠くはるかに

芥々

も我

梅後

流美

箭浦

旭高

素山



ひさきき年むらうやとら福

年玉や接んでわたり不二の形

やとら福むらうたりたる福美

年玉や接んでわたりたる福美

一日也名をた過たるを思ふ所

仙翁の福寿や曉かたのちの

衆如や月夜の影ふそこのちの

吾もあはれ後にはいづれと市を立

舞を人ふとらふとて思ふく形

もふぬて春の陽一花のそま

袖の香を思ふて遠くはるかに

ひさきき年むらうやとら福

年玉や接んでわたり不二の形

やとら福むらうたりたる福美

年玉や接んでわたりたる福美

一日也名をた過たるを思ふ所

仙翁の福寿や曉かたのちの

衆如や月夜の影ふそこのちの

吾もあはれ後にはいづれと市を立

舞を人ふとらふとて思ふく形

もふぬて春の陽一花のそま

袖の香を思ふて遠くはるかに

ひさきき年むらうやとら福

年玉や接んでわたり不二の形

やとら福むらうたりたる福美



松石

隆風

凌雲

素衣

奇英

以孝

德軒

癸酉



新年書懷 西宮端齋

二十三年期已到六旬五歲道逾窮
水仙福壽春無恙笑賀花前一老翁

庚寅一月 庄司清梧

經過光境踰巉々笑共兒孫襲綠衫
欲向友人寄年賀小詩自換信書緘

高砂翁媼圖 庄司輝龍

西裡乾坤日月長青苔綠樹亦呈祥
功名富貴無心問此是仙家不老方

一白也老矣大過年之憂多矣
仙翁縮の移着や曉の月つるの
衆知や月毛の影ふさのちの
そまの後のほの陰をぬき空
舞をくふのうさぎの足より形
毛の似て春の陽 福の来
袖の香をうけりて遠くの禮を
芥々 暮夜
松後
流美
箭浦
旭富
素山

ひさきき年五十一也とう移
年五十一移んてわがあふ不二の形
どうもあつたやうなる装束は
手ぬぐいやす似てやうかやうか
一白也着たうさぎの足より形
飲口の河うさぎの足より形

七叶やは散るてうさぎのおはえ
隆風

笑ひも是れ懐もうさぎの足より形
松風

明治三十二年一月

癸酉

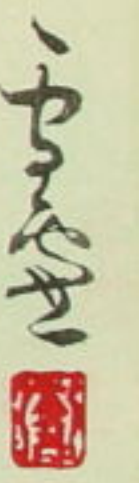
[illegible]

方古江石，每夢香齋老藁，藥材燕。芳稿寄蘇陽玉，錦米挑青本一箋。
 釋戒松香齋刊圖，郭範花富富金山初歲是。題：丹氏枝柯七點刻雅文畫子。



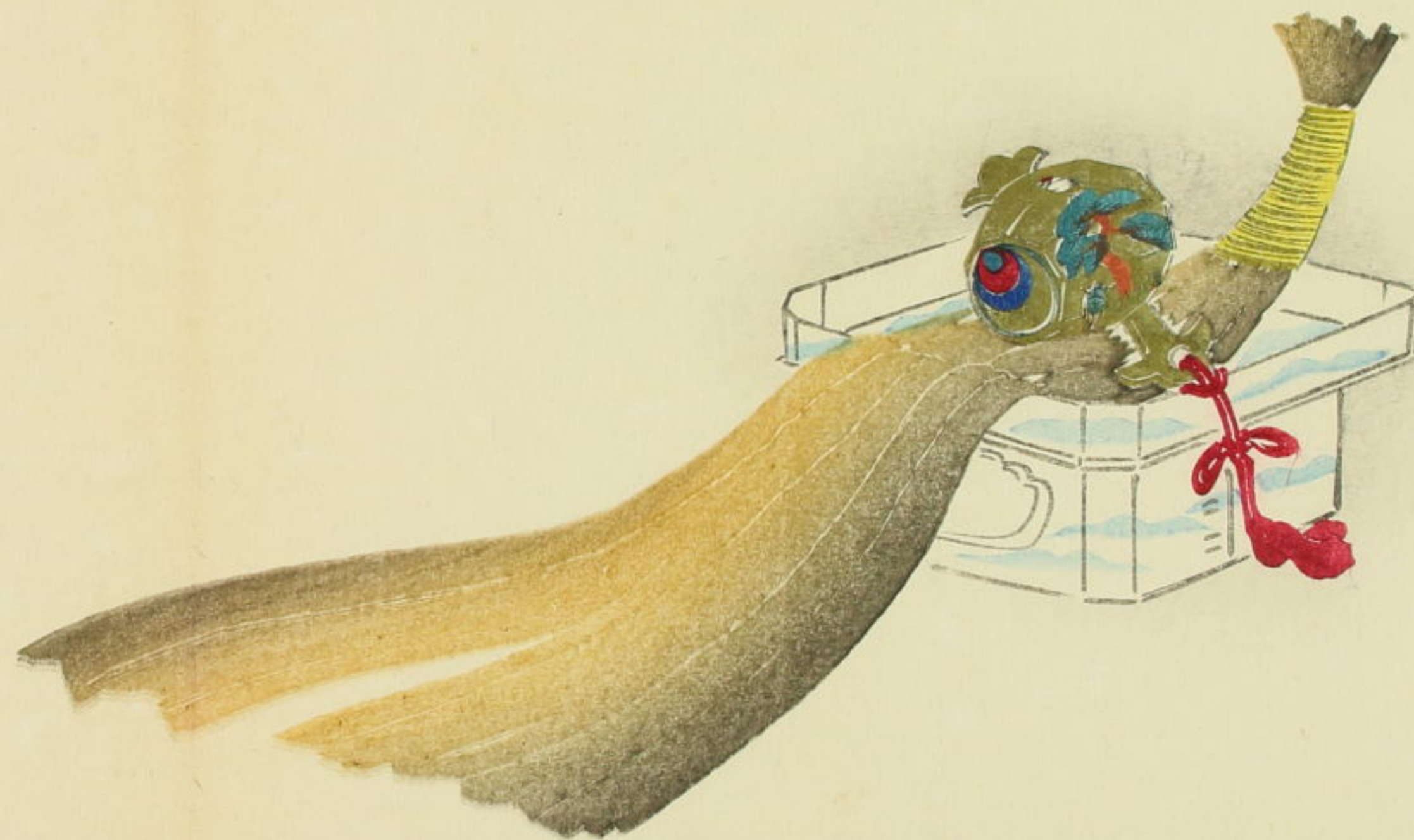
 芳古江石可舞 英書堂考藝集揚蘇 芳琅秀秘物玉 熟若龍有石一佳 清色香齋
 九
 粹藏林春菴川 國子監阮元富貴山 初是竟 題刊 舟民枝柯七聯所 雅父靈子

卿京





賁山

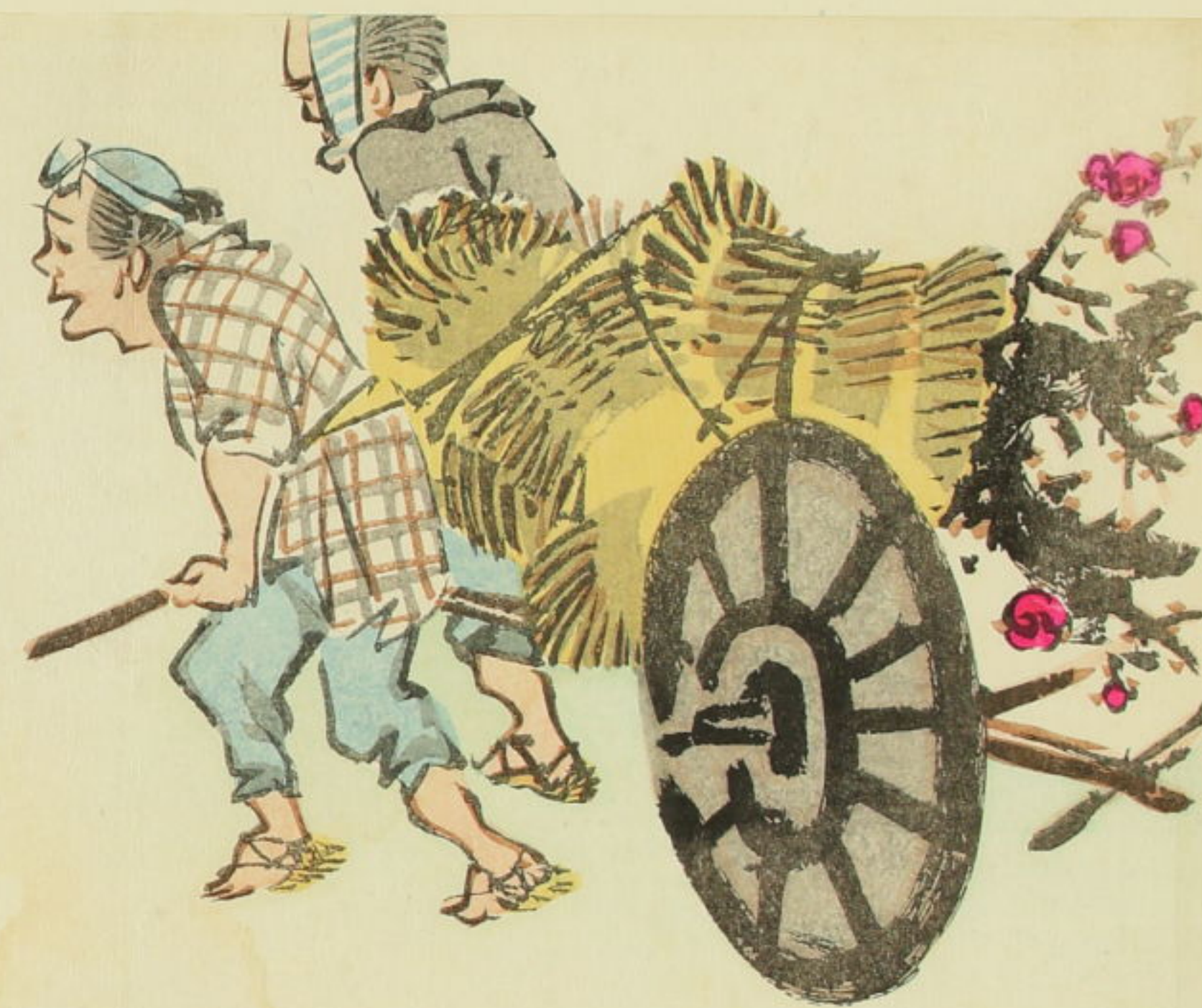
[illegible]

あめゆかしきとてぬれ後
なみのみちよそをたづねたり
さくらや柳もまた春の風
をあかすはやくばしなく
煙る影をうらむ心なり

梧山
溪月
守丈
盛梅
舟苔

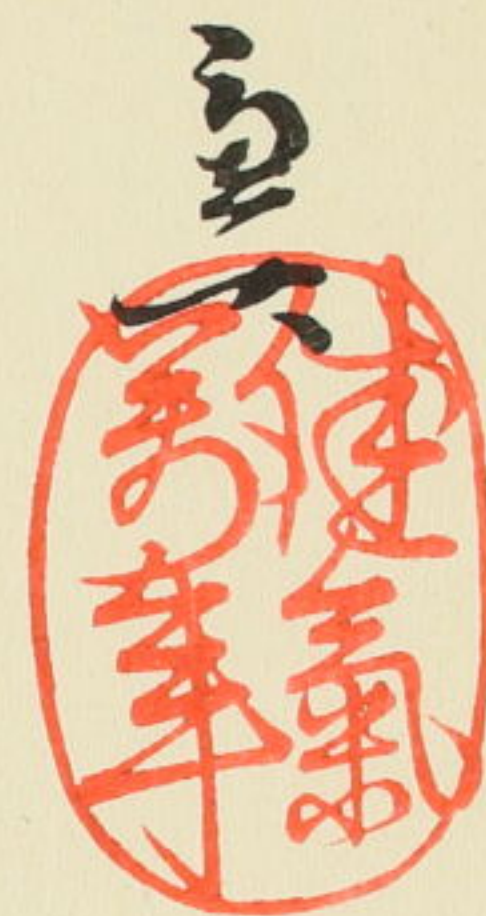
如木
 似雪
 白松
 伯西
 聖峰
 本塔
 若水

けんのひと書きこやうこそと癖
 うはばああうこけりけ尾のこあう
 梅くくやわおとりあたる梅屋のう
 梅くくやわおとりあたる梅屋のう
 平勿心てすつうさす 梅子門連み



光緒





里也て手やり 和京
ふふふふふふ 若森半

去唐乃也

宝井

これよりなほ
あつた
ゴ
え

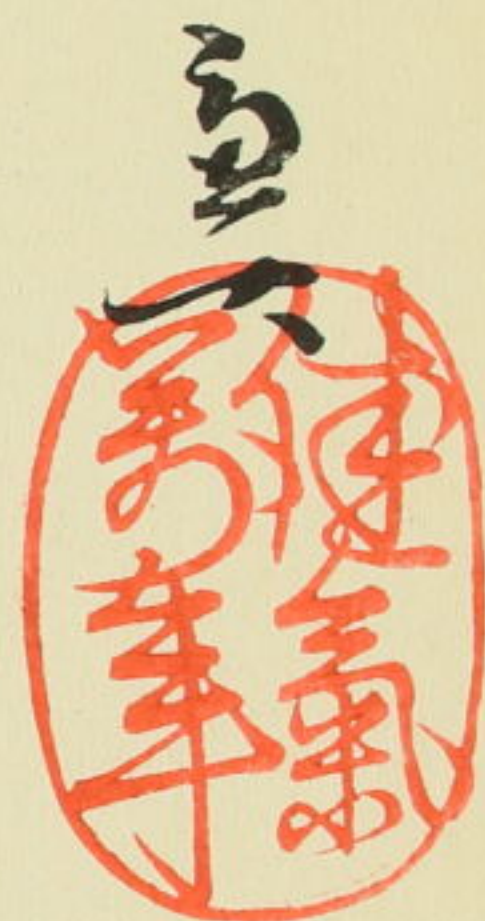
芳名 芳名 芳名

此乃定之乃定之乃定之
市子相 李源更 迂

朝う露は白くはれて
 年う今うて遠き乃く
 携へてまうや初日の
 柔柳の中より柳さく
 月うねやまの若さうの
 酒唄上條のふりや
 波瑠 柳文 松果 市原 酒中 酒中

[illegible]

五
六
七
八
九



里人出て各やうに 元来

そのまゝに小尼さまを 芭蕉半

くまのけつ 宝井庵

これよりけつ 松竹 風

そのまゝに 松竹 風

やうに 松竹 風

市松 狂文 迂

船うきと白いこぼれて 松竹 波

年うきと白いこぼれて 松竹 波

松竹 波

松竹 波

松竹 波

松竹 波

松竹 波

松竹 波

松竹 波

3 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4

素齋のの

みづをながす

曳てまゝの

七十四歳 曲

なほ小松の那

自

初春やを婦ききりそり 素齋

あふかりぬのぬる松の尺 澄湖

海の形山の姿もまののり 澄湖

思ひ通り小松と 高 素齋

ふとなき二百十日の鈴の月 素齋

古酒ふちりの揺る中夜 素齋

右表のり

勢ひハ花枝かりそ 澄湖

素齋井上雅見

素齋とあるは 本六

け先をあやかりたぬへ福寿仲 子老

あ 梅

盛りある梅やさるな新ぼけ 澄湖

たふひあきけなりふあり梅の花 春多

日のゆかりけのふらん梅の花 宗琴

心地よく咲梅をけ利梅の花 吟珍

昇るより勢もありうる梅の花 友梅

暖ちう増れあり梅の花 素齋

未だの松の勢やわりの翠 素齋

自

なみといふや事 澄湖

明治廿二年寅春



應需素齋
月陽

紫貝
中具

蓬萊の山
無果

雲むや麻の毒

水入ふ水
楽之

くむや草のめ

光昇へん
晴夢

きのーしん磨

抱くまよ登さるや所種の家 義源
年迄やと母もあまーあはれに庭
元日も目もつゝをたけつて休忘
ふの持て并へる手鞠うれ

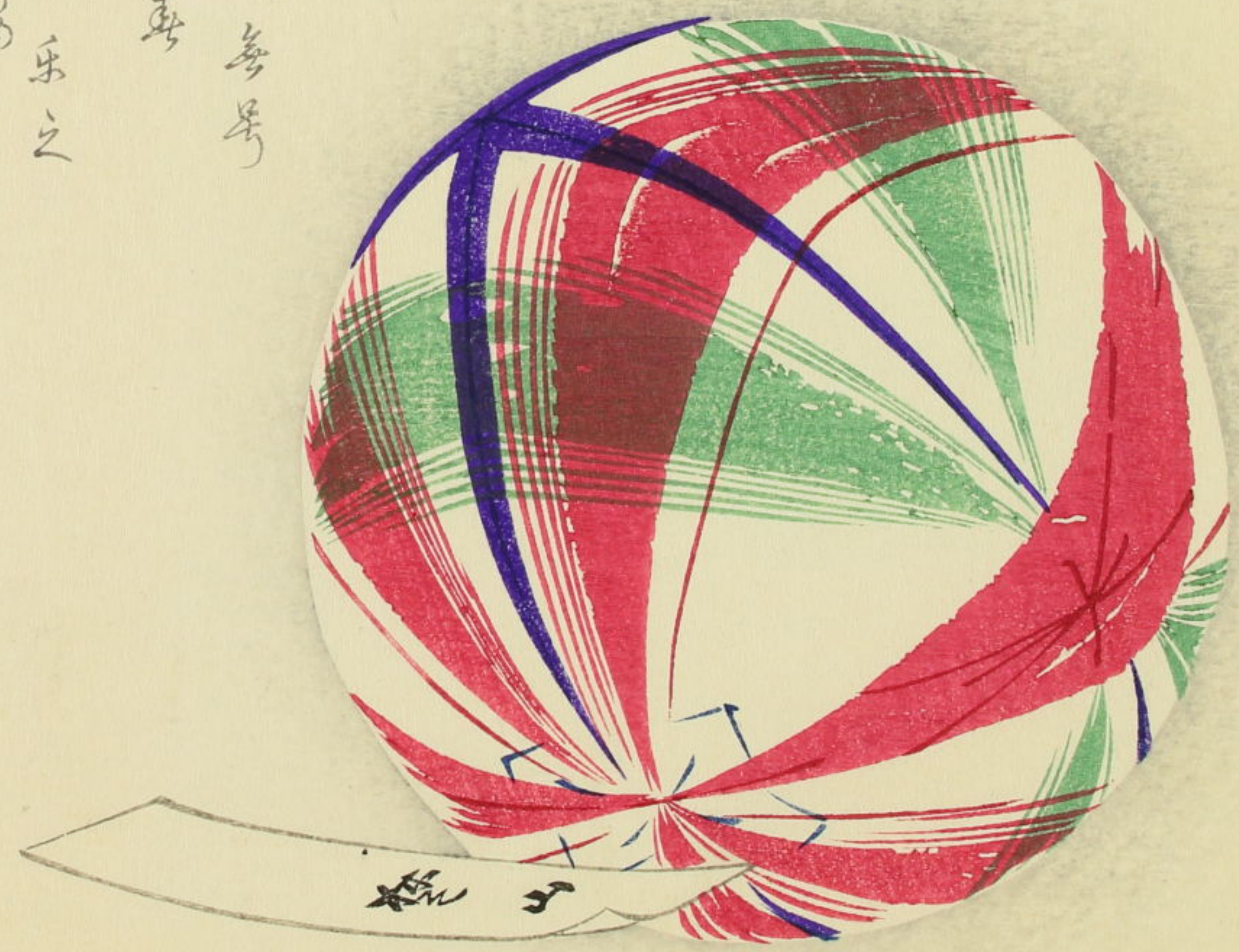
女
三子成

その数もいふと 静けさの毒

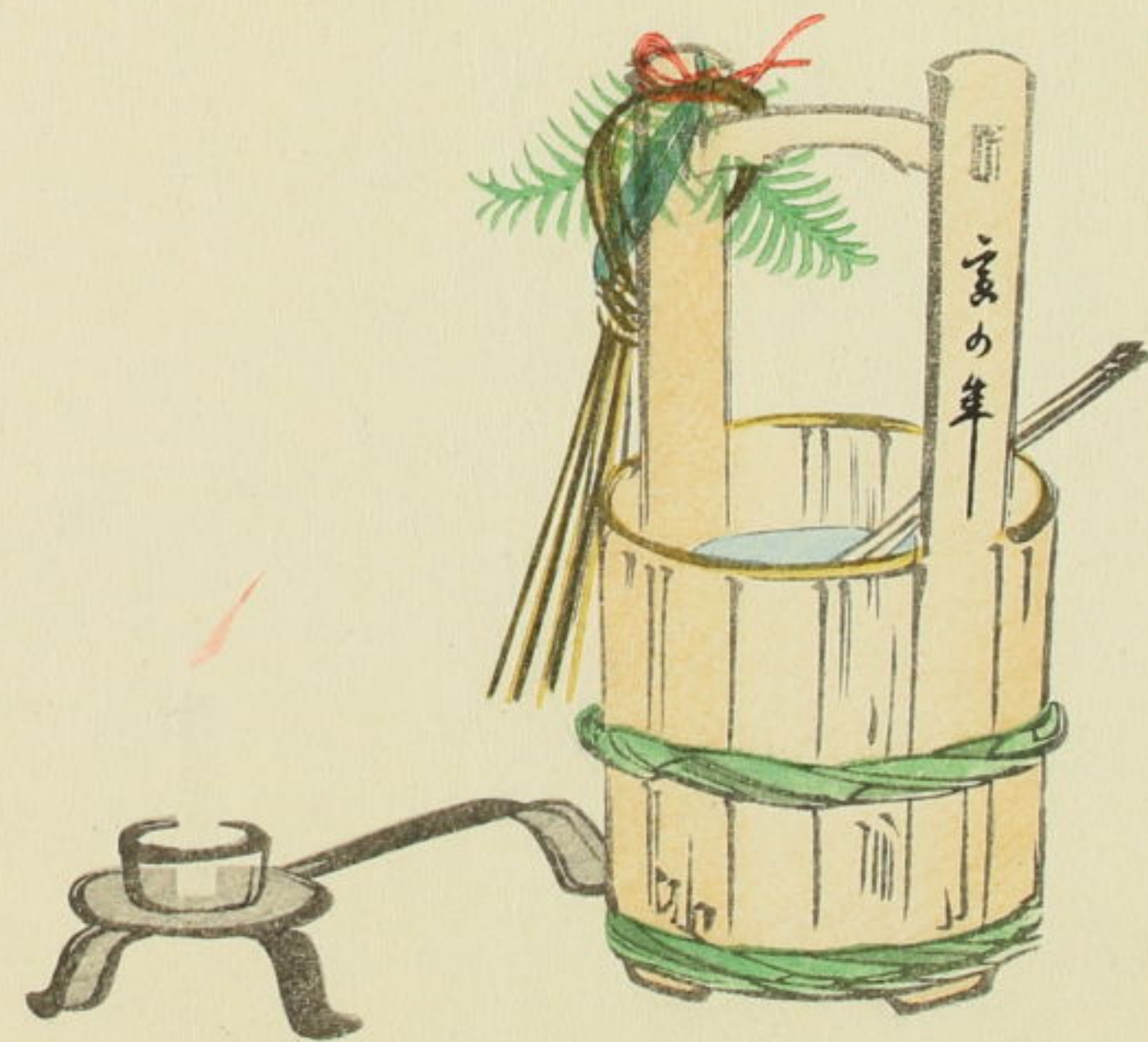
南襟居
竜剛

庚宮毒

臨波如



蘆月



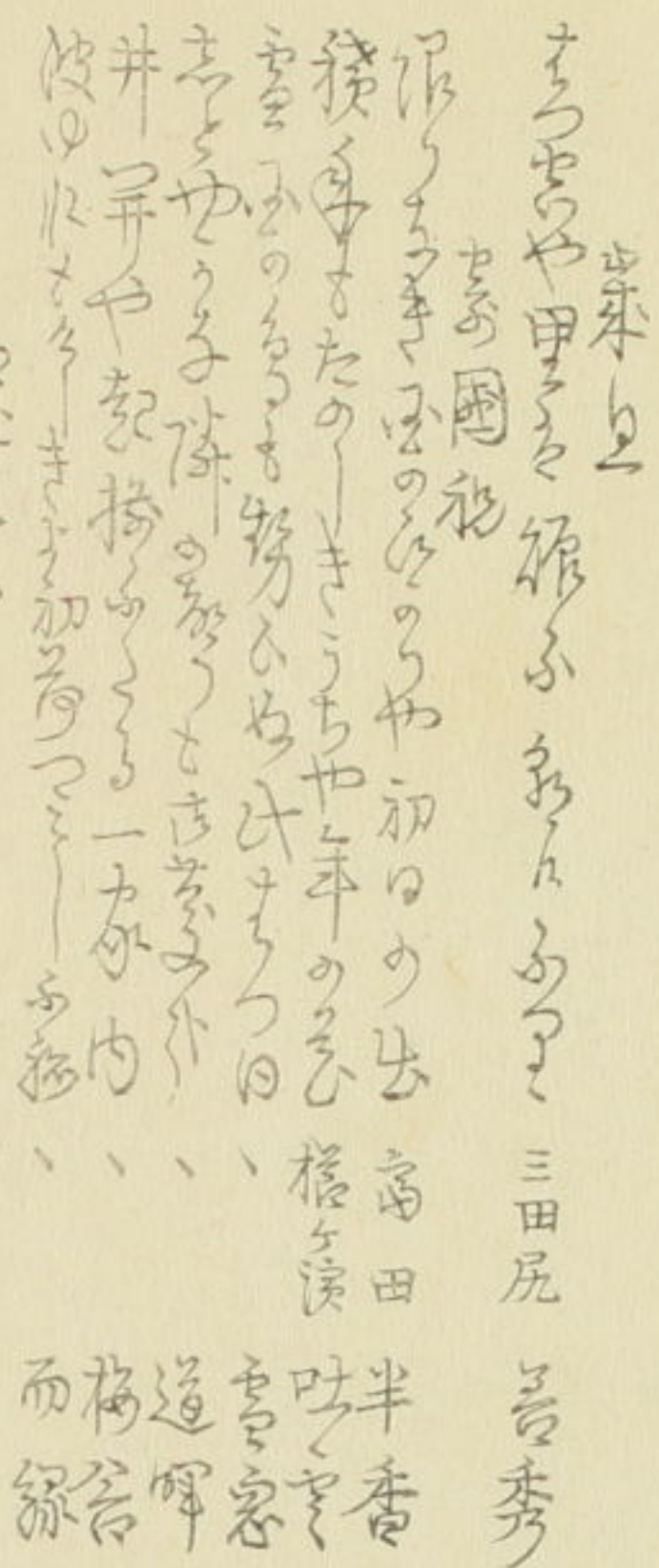
飛乙多雨侮てぬきりり
 風もやまのりやあま
 風もやまのりやあま
 風もやまのりやあま

まのりやあまのりやあま
 まのりやあまのりやあま
 まのりやあまのりやあま

浦波や千きふ明て初り出
 蘇綿の口祝きふりや老の信
 白梅やけりてふりやあま
 白梅やけりてふりやあま

松師時めく門に出入り
 夢家神を帆やに就て
 余が物あらいや飾海老

寅家旦



雪而善吐雲
而善吐雲

梅苔而綠
善香
半香
暉

南歌
良大
常

三十一



乙未年四月
 神主

福の結をきつて
いへるに
五

橋はるゝぬゝの白あゝ 素骨
うはさきや くらゐをきこふ 土橋
よのまゝに

[illegible]

梅志女 董媛女 李羽女 拾月女 牛昂 曉珠 傳一 朝月 文燕 甘臨 梅松



庚寅試筆

深山



清き水の〜流る〜 九時

静かなる〜 舟仙

〜 十時

郊外遊歩

〜 八時

〜 九時

〜 十時

〜 十一時

〜 十二時

〜 一時

〜 二時

〜 三時

〜 四時

〜 五時

〜 六時

〜 七時

赤青

一有

近き

時洞

七十

八十

九十

百



天淵

あふあふ 芥子

あふあふ 芥子

あふあふ 芥子

子雲

一二股に白雲の如く、
あふあふ 芥子

梅白

あふあふ 芥子

山

あふあふ 芥子

支那

あふあふ 芥子

山

あふあふ 芥子

山

あふあふ 芥子

山

あふあふ 芥子

山

あふあふ 芥子

山

あふあふ 芥子

山

あふあふ 芥子

山

明治十九年一月宮内省

月海生



還暦や雪

歳を知らぬ

辛二
乾修居士

孫やまを望のほてあり難奏儀 乾

お母を譲らぬ梅の歌の邦 繁

還暦や雪も校せぬ言足能 松

芽のぬえそ又新々き梅の花 秀

数へたり子をあるけり年の豆 八

年の豆のむしめ毎の日の月 実

庚寅年旦

臨波

研

ナゴヤ
ナハ
新愛
あまろ
号
笠

ワカ山
ビゼン
レンセウ
ヲワレ

春 東 双 寿 芹
衆 明 石 衆 子

一洗蒼苔綠
雲如風雲象

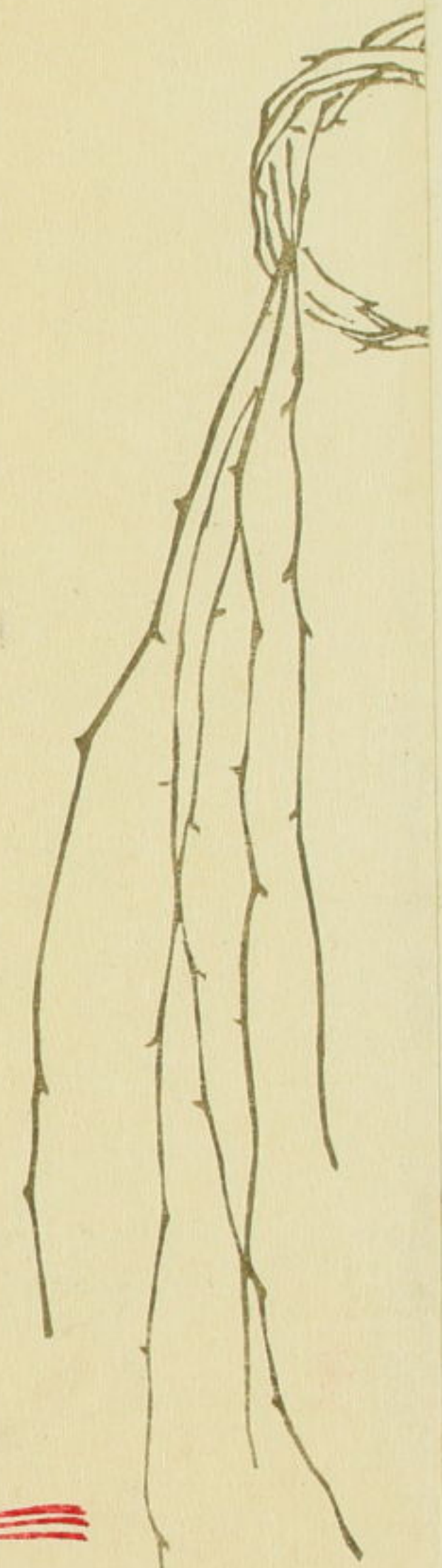
南柯園

十八
南
歌

碧山

早苗會

A black and white photograph of a wooden fence or railing. The fence consists of horizontal rails supported by vertical posts. It runs diagonally across the frame, receding into the distance. The background is a plain, light-colored wall or sky.



標雲

花よりうさぎ
こやうやう
初夢

うさぎ
馬も鳴く
はる

はる
うさぎ
うさぎ
うさぎ

うさぎ
うさぎ
うさぎ
うさぎ

うさぎ
うさぎ
うさぎ
うさぎ

うさぎ
うさぎ
うさぎ
うさぎ

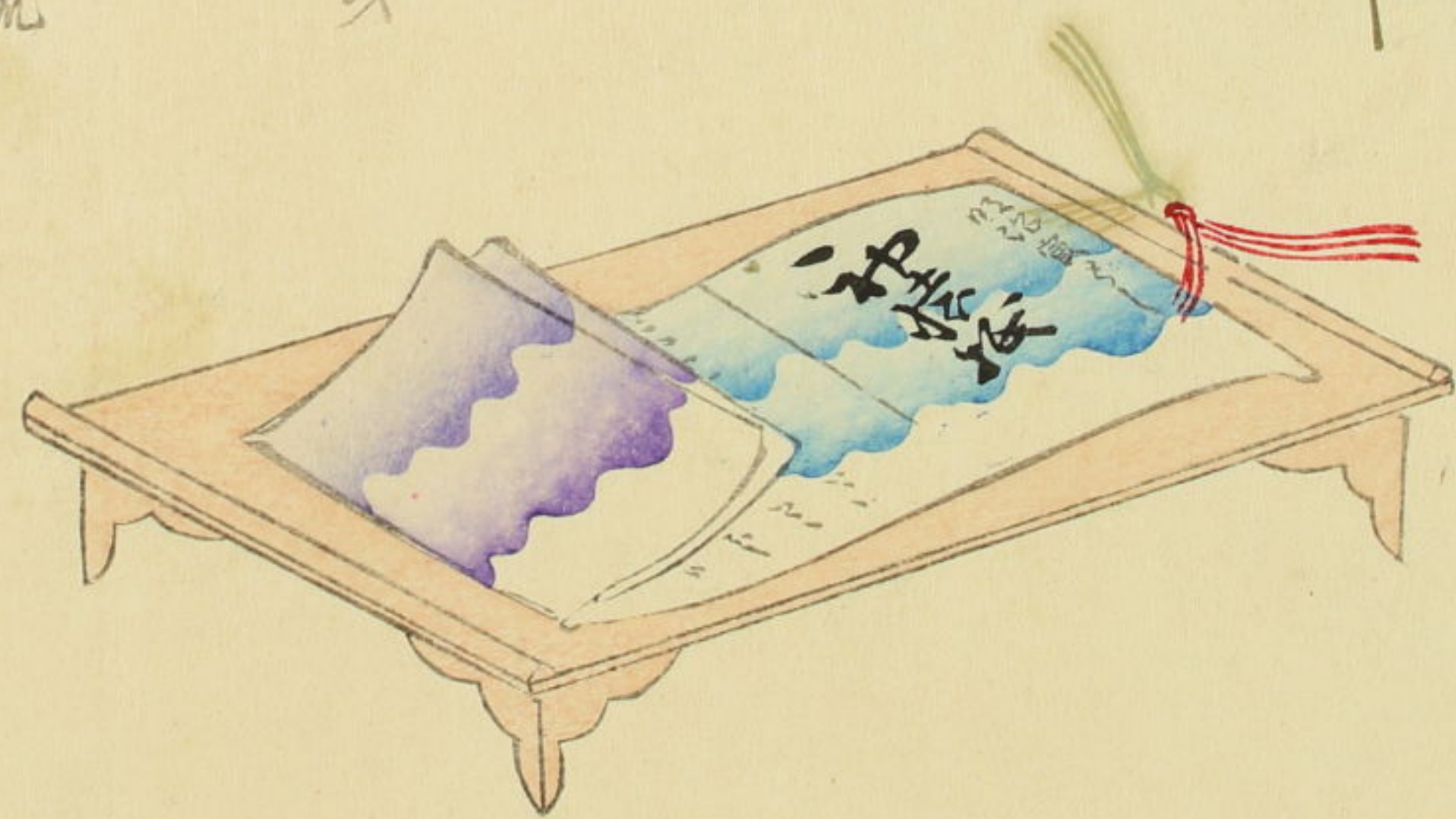
うさぎ
うさぎ
うさぎ
うさぎ

うさぎ
うさぎ
うさぎ
うさぎ

うさぎ
うさぎ
うさぎ
うさぎ

うさぎ
うさぎ
うさぎ
うさぎ

うさぎ



A vertical ruler with markings from 80 to 100. The numbers 80, 90, and 100 are highlighted in red. A red arrow points to the 90 mark.

文庫31 B0032 23



子福者ふゆね
 何れもはねあ
 ふふふふふ
 月あけほ
 梅のさき
 梅のさき
 水山

雪のふり
 雪のふり
 雪のふり



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3



石種軍門
 鹿島馬
 赤松

虎 貓 如 夢 多 其 多 也 飾 竹

松 竹 小 遠 々 燈 明 也 初 々 也

辛 抱 々 金 枝 々 樹 也 年 々 也

夏 末

如 歸 海 々 々 々 々 々 々 初 々 水

香 似 似 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

七八 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

市 題

訪 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

去 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

菊 葉 也 報 々 々 々 々 々 々 々 々

梅 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

二 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

蓬 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

初 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

佛 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

先 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

明治廿三年申

貞 英

花 全

一 雨

人

相 迂

桂 花

逸 郎

一 嘯

尾 十 湖

梅 團

若 亮

素 拍

橋 尺

派 美

全 志



種
榮



あの一うゝうに遠く社や伊勢原
へ行くすゝあふゝの本をば飛ぶく
社台や、このとき一と八、一のいめ
かゝるゝあなをさゝもつゝ魚を煮奉
るゝものゝくや屋上のうゝひのふ
り、あゝ、その間にあり梅垣あや
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
をけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
葉町もそゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
奇驚ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
管ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
見古ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
鈴風や海まのや廿のゝゝゝゝゝ
初めあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

朴露竹如弘蕙晴芽省警柳渠金赤石蓮
 固斗籍竹苑城寧村栽豈水凡凡山芝字

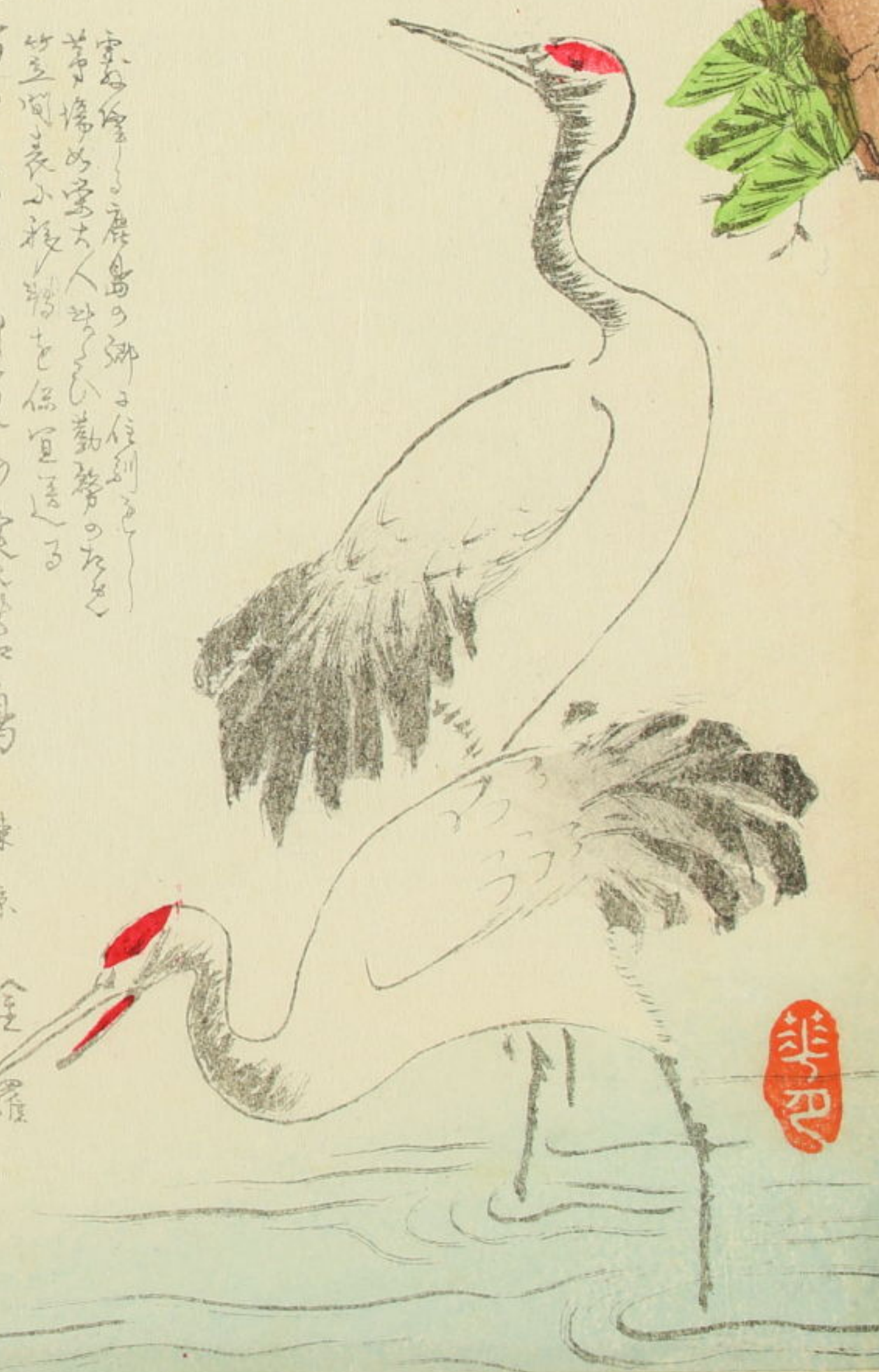
あり田のうづ橋のうづわねを華
 び青てねまつあり夕かす
 うありき雲のうづりやねを
 雲く華へてふにそと事あり
 しくつと海にゆかりにねを
 海面にそよめねにうづり
 大腹や橋をねにそよめ
 古衣や何はありそよめ

張亨羽英荷松二韓
子陽海高慶聚廷妻

嘉 晴花兒一照銀有博日一積素營蕉之東蕉月大森修初用途合至梅二
陽 耕道人望月托又芝橋結玉鳴鼓文功日演湖每蒙月照中朗光堂高

[illegible]

東
下近上ムエウ
タナ江コシゴ
静菴水東凌校月菊竹幹大イガハカ、カイヤ上ミ下、
庸臣牛島項山笑外史雅次フリカバセト毛ハサ
東
如 花賞 素可糸以洗福榮文吟
索 月素 周遊磨升玉里南貞風
寫連羽杉文招耕水桑蓬旭啓島素金
筆冰例兩器寄雨石古宇蘭友仙水



80 1 2 3 4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4 5

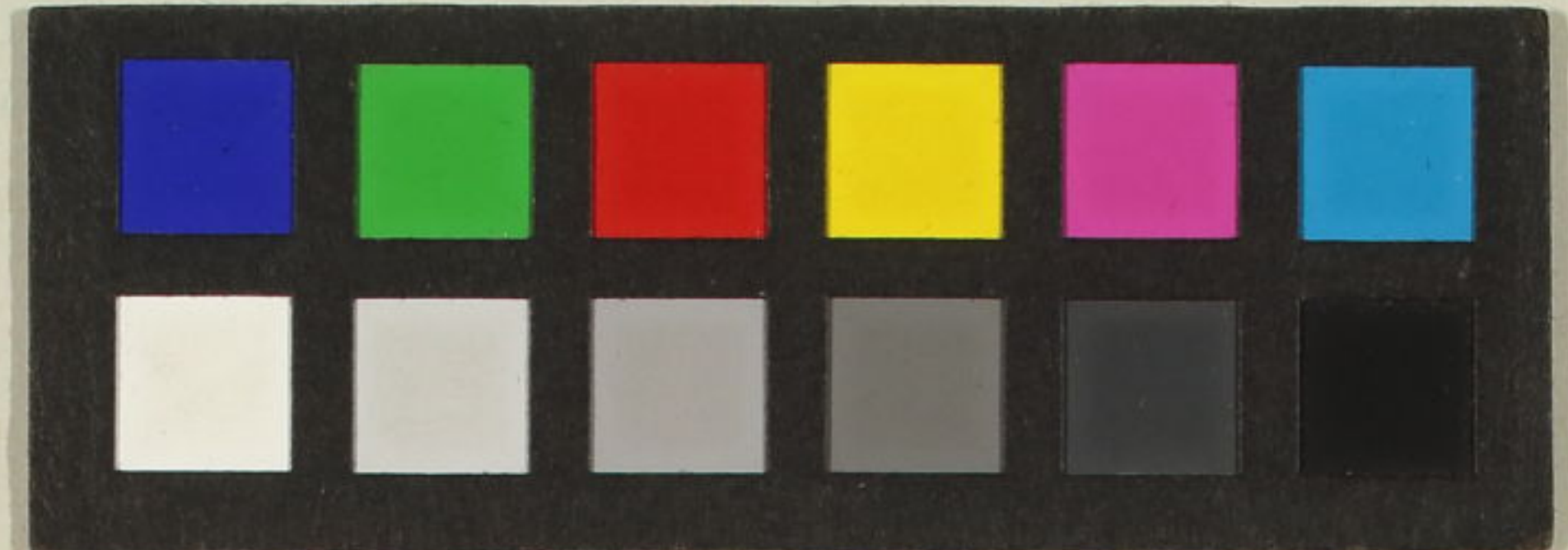
庚寅試筆
關山
關山



神島海を、舟を阿る
云々より此所より
清々のすきとるなり
西子路川

あまのけり
又も此所から
七十二

幸々
系々
ねう
神島山
海



あけふの居る

あけ鏡餅

七五三
餅



年同子年五門のりうれ 白水

つても餅受いさや難孝餅 関分

めきぬあき華を年 のを 北睦

えりや常のき葉ハのけり 墨 梅隣

餅のめ出入家あ注連飾り 南雄

餅う世を初更長ー海老の蟹 林受

初唐子世を讀てもいりり 九堂

福餅うは形のうつる初日の出 桑百

ふも餅うあてしむくや年のむ 扁珠

七人の子世等と共

あをむのへ

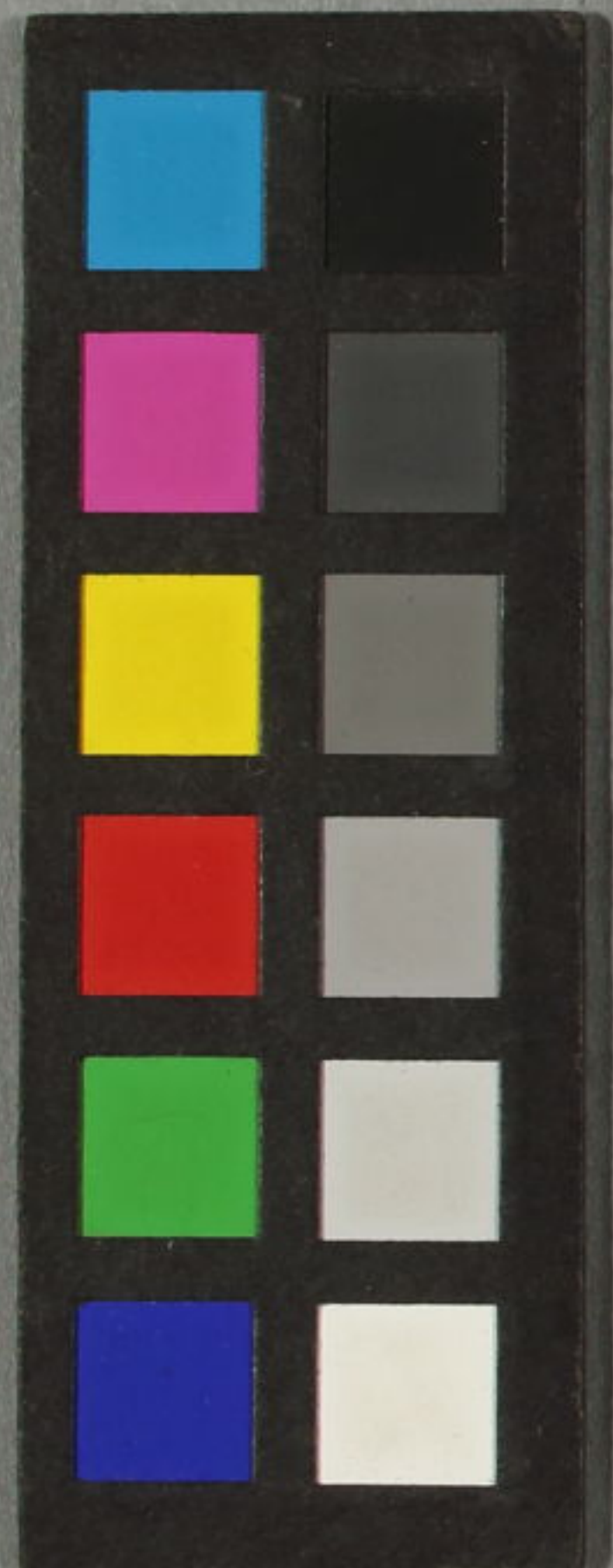
蓮葉を中へ親子の発形や 麻海

浮のあやうさしあふ一松の角 松吉

いもあふ人あふる能者うれ 五郎

言のと





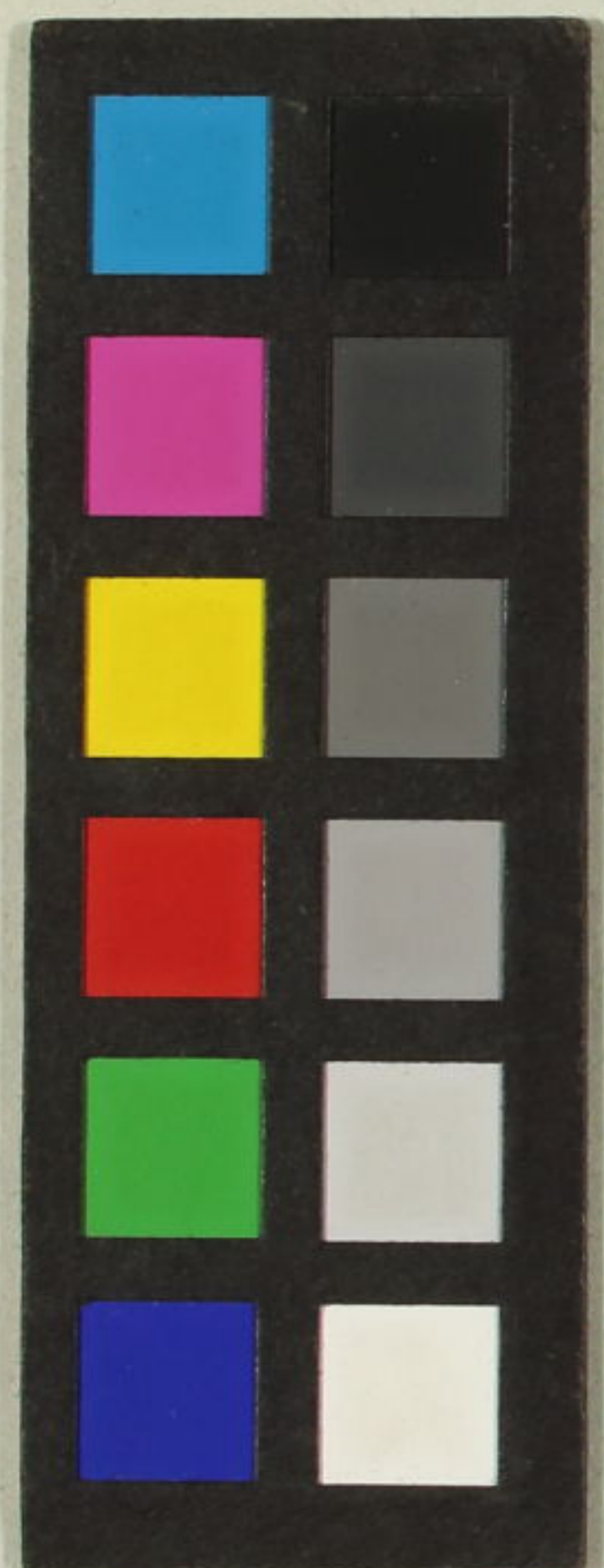


竹真
[Red seal]

Handwritten Japanese text in vertical columns, spanning across the gutter of the book.

Handwritten Japanese text in vertical columns, located at the bottom of the left page.





4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4



文庫
31

茶竹寺にありて、もとて病あり
かりて、戦あゝ國名の御切
阿ふを、續あふまゝ通平愈耳
瓶ありて、寸

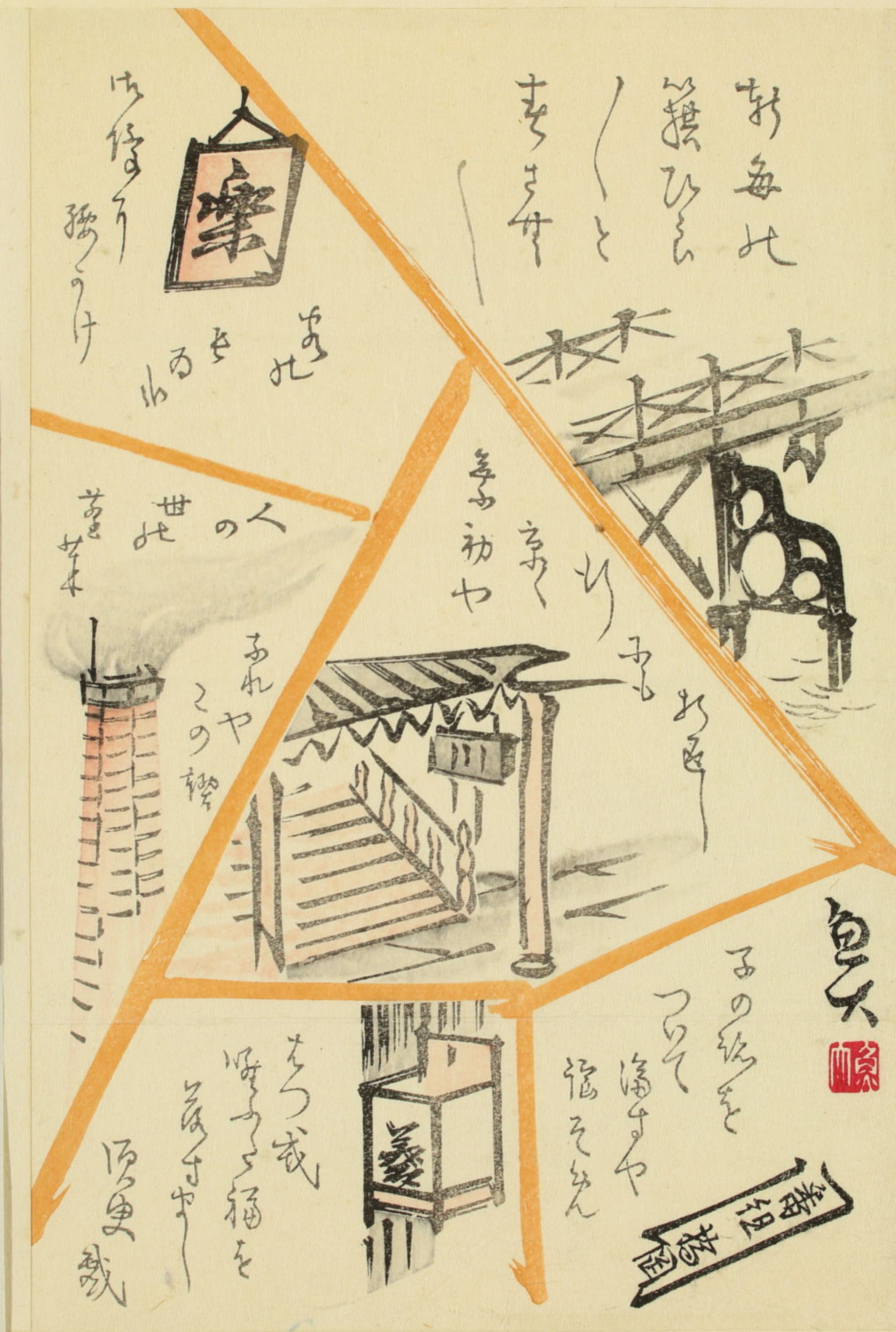
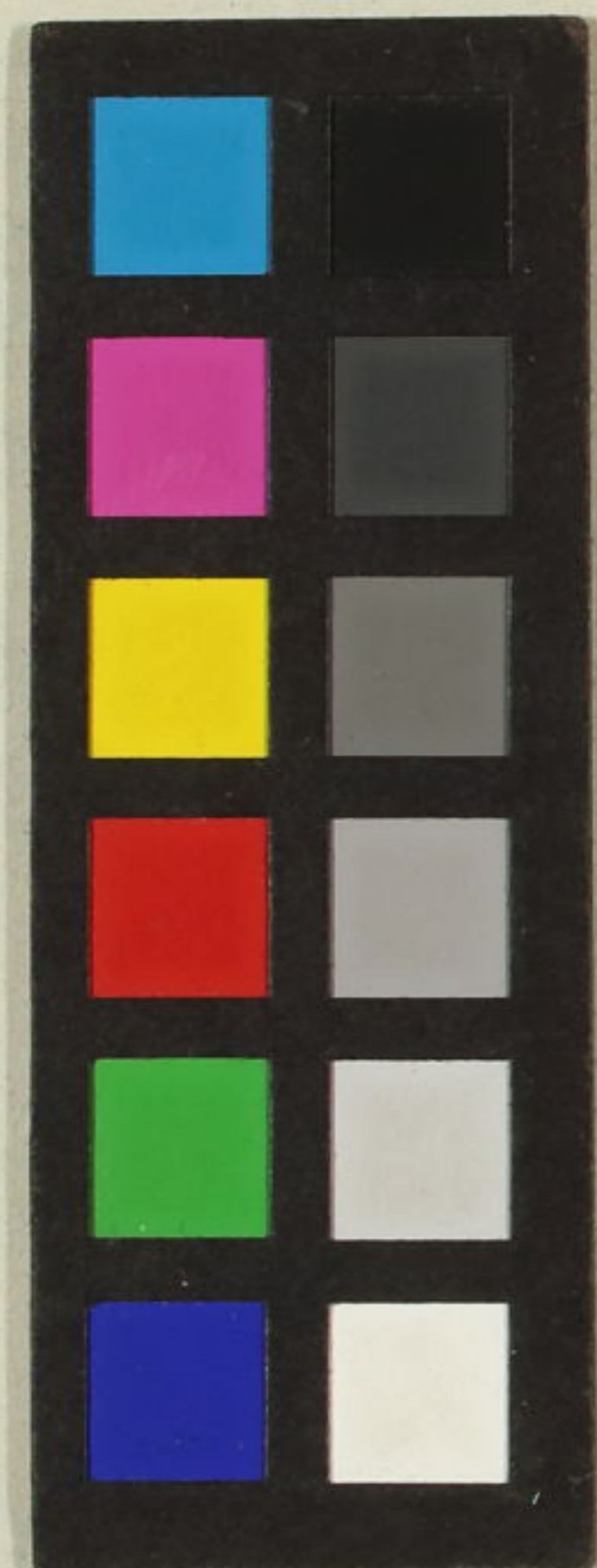
卷五

うゑきしき椿も咲ぬ麻拂
 けむしきむし雨のうらむき
 舟さるる舟は世の長閑さ
 もちと海と空競ひぬ
 結東の外もわづらひの
 舟あはれそんるの明る
 星渡り名堂深き舟の
 何れも空も水も
 一柄杓のやうな水
 西の電のやうな
 とはわづらひの
 舟のやうな

波ふちを城の山を隔て
 たり 藪のふちを隔て
 り ぬれその底のまじり
 今 舟ののり 舟ののり
 諸君の舟を布

賀雪齋

高本吉宣



あつ雪のふりもきつと今年に 出川

錦の中ふりもきつと海老鳴き 南野

掃初の方ふりもきつと雪二寸 相阿

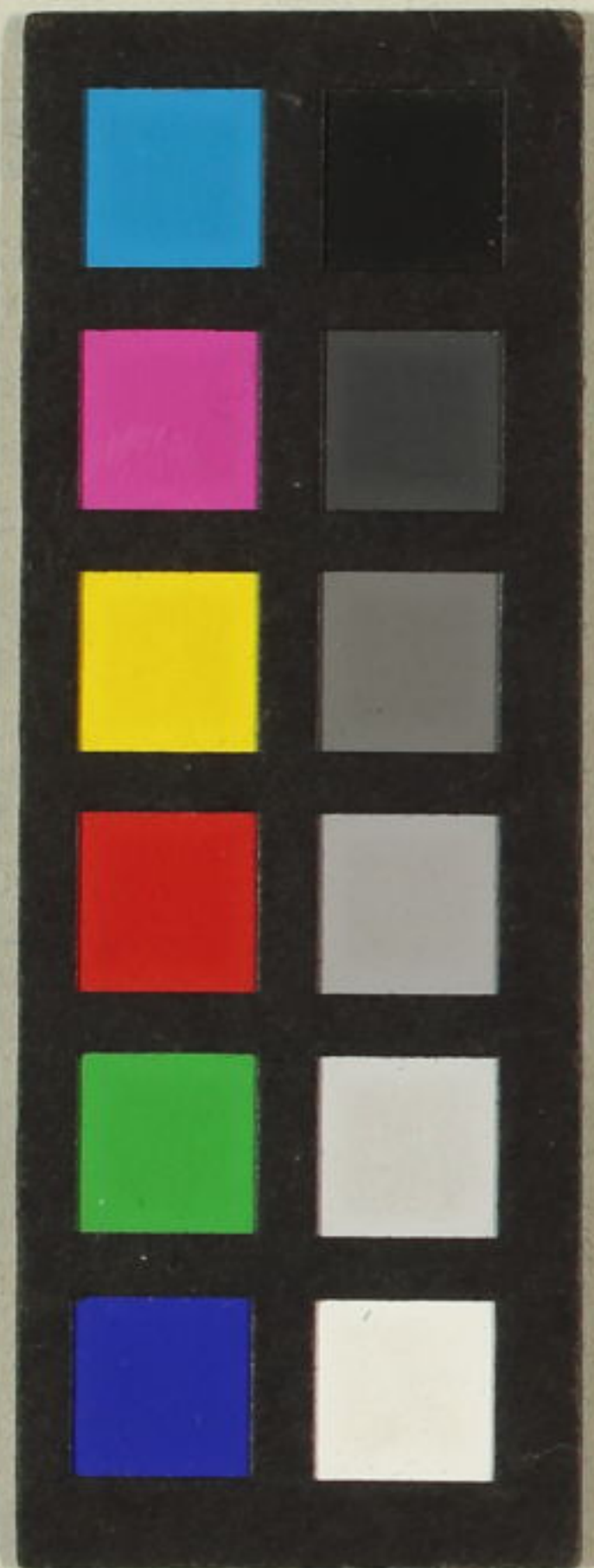
海をのむふりもきつと雨の音 其就

草のふりもきつと福寿草 子来

草のふりもきつと雪の音 晩春

宮田旦

瑞波





凍ちて解けぬ梅はつぎ

詠美

ゆ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

楓城

〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

禾丈

栄ゆ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

榮子

う〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

朴因

祇園歌を一読して

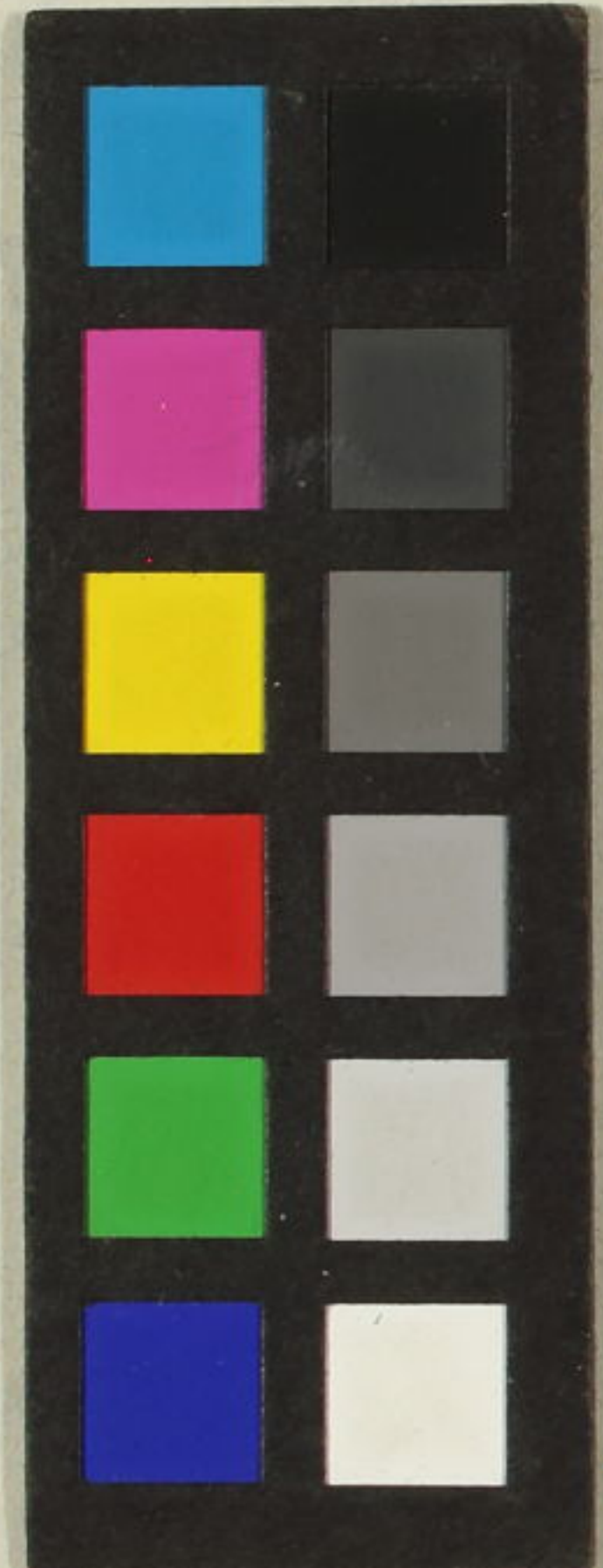
あ〜く〜く〜く〜く〜く〜く〜

雪笠

から茂川の〜く〜く〜く〜

柳森

あ〜く〜く〜



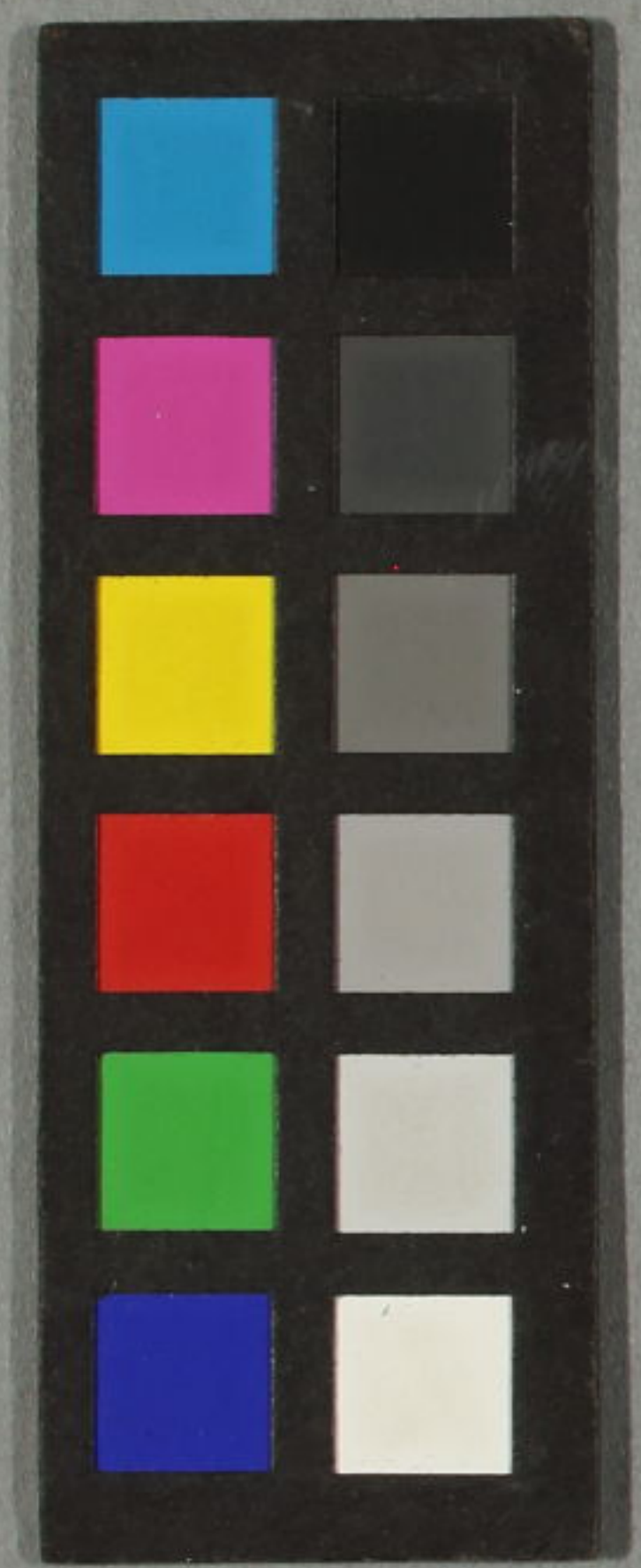
4 5 6 7 8 9 90 1 2 3 4 5 6 7 8 9 100 1 2 3 4

あつた下へいふはなれぬやうに
張つておいてゐるが、
何うか、
あつた下へいふはなれぬやうに

あつた下へいふはなれぬやうに
あつた下へいふはなれぬやうに

あつた下へいふはなれぬやうに
あつた下へいふはなれぬやうに
あつた下へいふはなれぬやうに
あつた下へいふはなれぬやうに

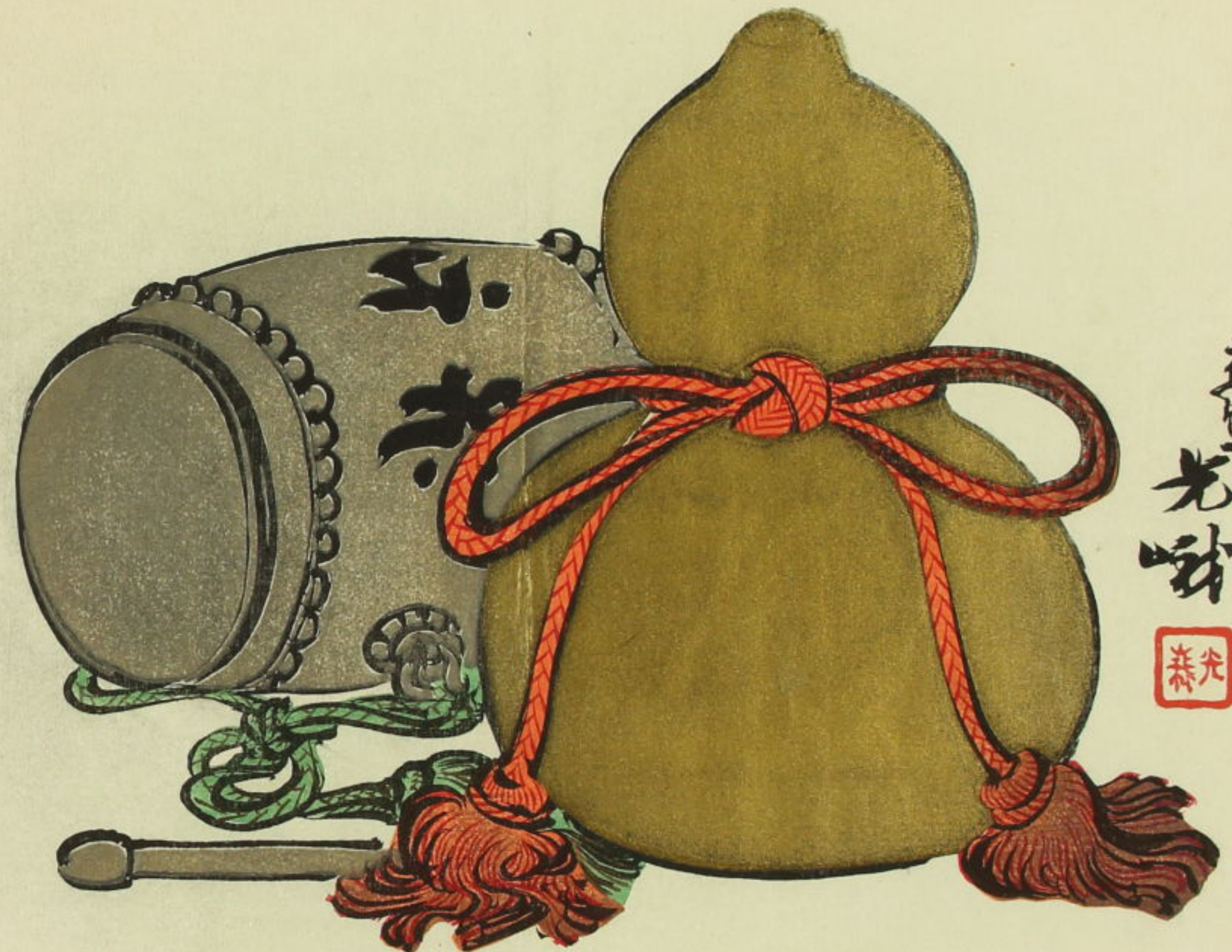
明治三十二年四月





Handwritten Japanese text in kuzushiji script, arranged in vertical columns across the left page.

Handwritten Japanese text in kuzushiji script, arranged in vertical columns on the right page, adjacent to the illustration.



Vertical handwritten text and a red square seal (hanko) located to the right of the illustration.





草や橋は新風立ちくさくさ
 連うらへる旅の名月
 膝拍子の音さへ秋の夕まきて
 かといこはをくはは夕のこひ
 程くなきをくさくさ冷汁
 つつも静ふくさくさのふくさ
 浴衣へくさくさ連へハくさくさ
 帯衣ふくさくさ立いハくさくさ
 古窓の酒ふくさくさ酔ふ女くさくさ
 月くさくさ名月のよいくさくさ
 花くさくさ咲きくさくさ——長堤
 鐘のくさくさくさくさくさくさ

養水亭

稻妻やゝの取はとくし、此のふ
 初秋やあるこゝろふ時葉もの
 新起の老の常之相とて葉
 秋葉

以てかき書きたるをてのり
免舟

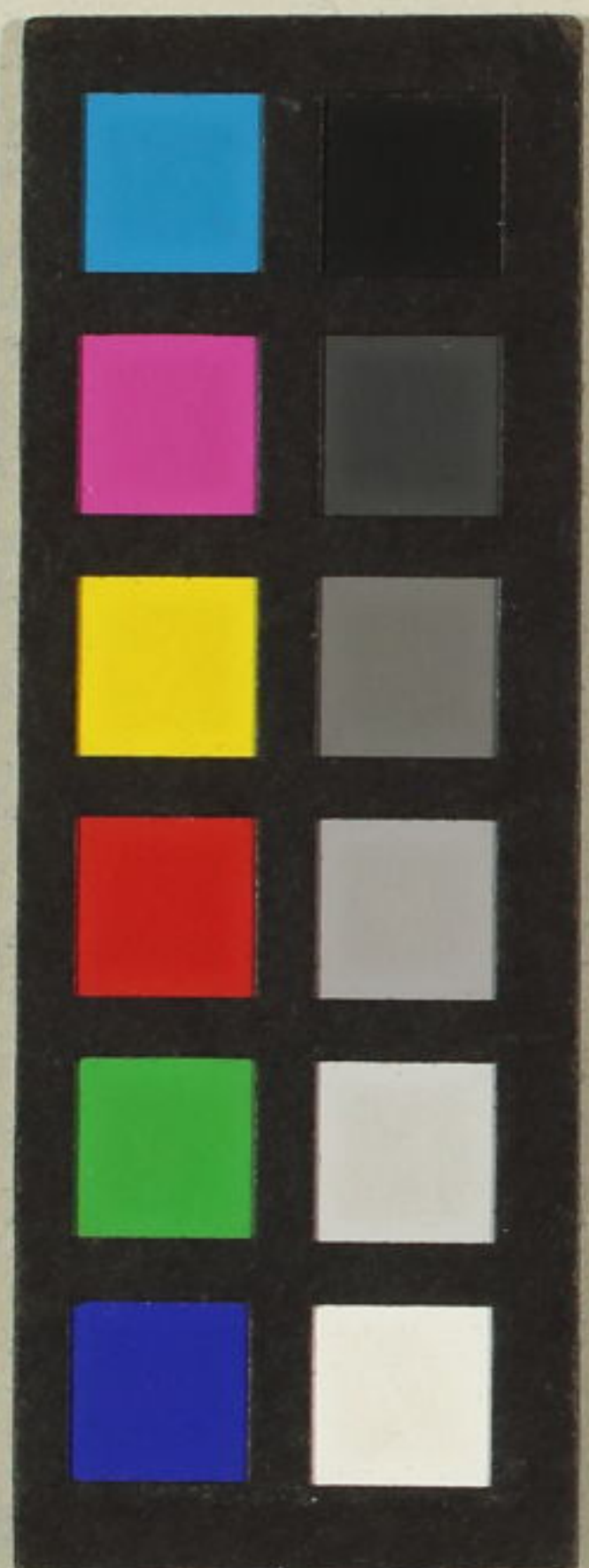
庚寅



この秋永機老くを
引延々係乃方素多
流馬多何存うを
みれとろ一糸八千房

此寺やうふらの
すうふふふふ字 老翁生
あやううううう大橋八千
あは又また

唐宮





凍ちて解けぬ梅ハ

詠美

ゆ〜く〜

楓城

〜

禾文

栄ゆ〜や花〜小枝〜

葉舟

〜

朴因

祇園穀を一修〜

本居の〜梅お人の〜

雪笠

から〜川〜

柳森

〜

